

第51回日本集中治療医学会学術集会
教育セミナー(ランチョン)10

肺動脈カテーテルの温故知新 ～今、心原性ショックが熱い！

座長

川上 将司先生／飯塚病院 循環器内科

講演1

誰でも簡単！集中治療での肺動脈カテーテル使用術
-どう読み・活かす!? 一歩進んだ血行動態把握法の会得-

細田 勇人先生／近森病院 循環器内科/集中治療センター 科長

講演2

経皮的機械的循環補助患者における肺動脈カテーテル活用術

澤田 賢一郎先生／国立循環器病研究センター 心臓血管系集中治療科

教育セミナー(ランチョン)は、事前予約制となります。
詳細は、学術集会ホームページよりご確認をお願いします。

2024年3月14日(木) 12:10~13:10

第13会場(ANAクラウンプラザホテル札幌 3F「鳳」)

共催:第51回日本集中治療医学会学術集会/エドワーズライフサイエンス合同会社

Edwards、エドワーズ、Edwards Lifesciences、エドワーズライフサイエンスおよび定型化されたEロゴはEdwards Lifesciences Corporationの商標です。

エドワーズライフサイエンス合同会社

本社:東京都新宿区北新宿2丁目21番1号 Tel. 03-6895-0301 edwards.com/jp



Edwards

誰でも簡単！集中治療での肺動脈カテーテル使用術 -どう読み・活かす!? 一歩進んだ血行動態把握法の会得-

近森病院 循環器内科/集中治療センター
科長 細田 勇人先生

「肺動脈カテーテルを使いこなそう！集中治療領域における重症心不全/心原性ショック管理を上手に行おう」を目標に、循環把握のキーとなる肺動脈カテーテルの読み方・活かし方について話させていただきます。皆さんご存知のように肺動脈カテーテルのルーチンでの使用は予後を改善させず推奨されてきませんでした。ただ一方で、近年、重症患者に対する肺動脈カテーテルの使用が予後を改善させたという報告も散見されます。この相違が生じる一番の理由は、肺動脈カテーテルを適切に使用できていたかという点に尽きるかと思えます。肺動脈カテーテルの結果をどのように解釈して、その結果に対してどのような治療選択を行うか？それを正しく行えていなければ、肺動脈カテーテルを用いたとしても決して良い結果を得られるはずはありません。また、肺動脈カテーテルを留置し続けることが合併症を引き起こす可能性があることも明白です。肺動脈カテーテル抜去後を見据えてどうすべきか？代わりとなる血行動態把握法はあるのか？これらの疑問に答えるべく、少しでもわかりやすく日常臨床に役立つ肺動脈カテーテルの使用術を話させていただきます。また、肺動脈カテーテルは心原性ショックだけでなく、他のショックの見極めにも有用です。決して循環器内科医だけが知っていればよいものではありません。集中治療医の先生方にもショックを見極める肺動脈カテーテルの最低限の知識から心原性ショックを診る際の実践的な使い方までお聞きいただき、一歩進んだ血行動態把握法を会得していただければと思います。

経皮的機械的循環補助患者における肺動脈カテーテル活用術

国立循環器病研究センター
心臓血管系集中治療科
澤田 賢一郎先生

心原性ショックの診療においては、患者ごとの基礎心疾患、重症度、病態を把握し、ショックの進行に応じた治療目標と血行動態モニタリングが重要である。特に、難治性心原性ショックの場合、大動脈バルーンパンピング、IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル、静動脈体外式膜型人工肺などを用いた経皮的機械的循環補助が適用される。これらの補助循環装置を効果的に導入し、適切な循環管理、そして安全な離脱を行うためには、それぞれの補助循環装置の特性を理解し、最適な血行動態モニタリングを行う必要がある。多様な評価方法がある中で、機械的循環補助下においては、肺動脈カテーテルによるモニタリングが中心的な役割を果たす。肺動脈カテーテルは、心不全患者に対するルーチンでの使用は推奨されないものの、血行動態が不安定な心原性ショック患者では、生命予後を改善させる報告が散見され、広く使用される。肺動脈カテーテルを用いることで、持続的に、心拍出量、肺動脈楔入圧、肺動脈圧、右房圧をモニタリングすることが可能となり、各指標を組み合わせることで左心不全、右心不全、両心不全といった血行動態プロファイルや心原性ショックの重症度を客観的に評価することができるため、心原性ショックの治療戦略に広く活用される。本セッションでは、経皮的機械的循環補助を要する心原性ショック患者の診療ならびに肺動脈カテーテルに関わる最新の知見やエビデンスの確認を行い、心原性ショックの重症度や血行動態プロファイルに基づく循環管理を行うための実践的方法について説明する。